

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 7年 6月 12日

奈良県知事 殿

提出者

住 所 大阪府大阪市中央区神崎町4番12号

氏 名 味覚糖株式会社代表取締役 山田泰正

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 06-6767-6000

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	味覚糖株式会社 奈良工場
事業場の所在地	奈良県 大和郡山市 今国府町137-5
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	食品製造業
② 事業の規模	製造品等出荷額等：51,206百万円
③ 従業員数	社員：176人、パート：295人、派遣社員：245人

④産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>有機汚泥→再生利用業者に委託し、たい肥として再資源化。 混合物→最終処分業者に委託し、埋立処分。 動植物性残渣→再生利用業者に委託し、たい肥として再資源化。 →中間処理業者に委託し焼却し、焼却灰として再資源化。</p>
-----------------	---

(日本産業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項
<p>(管理体制図)</p> <pre> graph TD A[奈良工場長(廃棄物処分統括責任者)] --> B[インフラライン長(廃棄物管理ライン長)] B --> C[現場管理責任者(産業廃棄物管理責任者、特別管理産業廃棄物管理責任者)] </pre>

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
排出量	149.8 t	468.57 t	
産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-	
排出量	1736.04 t		
(これまでに実施した取組)			
各部署、工程で発生量を抑えるよう、個別に管理している。			
【目標】			

②計画	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
	排出量	142.31 t	445.14 t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	排出量	1649.24 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
工程の改善による産業廃棄物の減少。			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残渣、混合物は、有償物を分別し、 それぞれ個別に管理。
	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残渣、混合物は、有償物を分別し、 それぞれ個別に管理。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】			
産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物	
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	
産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣		-
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t		t
(これまでに実施した取組)			
実施予定なし			
【目標】			
産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物	
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t	
産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣		-
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t	
(今後実施する予定の取組)			
実施していない			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】			
産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物	
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t		t
産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣		-
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t		t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t		t
(これまでに実施した取組)			

		実施していない
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t
(今後実施する予定の取組)		
実施予定なし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】			
産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物	
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	
産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣		-
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t		t
(これまでに実施した取組)			
実施していない			
【目標】			
産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物	
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t	
産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣		-
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t	
(今後実施する予定の取組)			
実施予定なし			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】			
産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物	
全処理委託量	149.8 t	468.57 t	
優良認定処理業者への処理委託量	0 t	468.57 t	
再生利用業者への処理委託量	130.86 t	0 t	

①現状	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	全処理委託量	1736.04 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1036.9 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	613.87 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	85.27 t	t
(これまでに実施した取組)			
再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量を削減する。			

		【目標】		
②計画	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物	
	全処理委託量	142.31 t	445.14 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	445.14 t	
	再生利用業者への処理委託量	124.37 t	0 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-	
	全処理委託量	1649.24 t		t
	優良認定処理業者への処理委託量	985.06 t		t
	再生利用業者への処理委託量	583.18 t		t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t		t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	81 t		t
(今後実施する予定の取組)				
優良認定処理業者を選定する。 委託先処理業者には定期的に実地確認を実施する。				
※事務処理欄				